

周波数の国際協調利用促進事業 令和3年度 事前評価結果

| 案件名 | 実施期間 | 評価会での主なコメント | 評価点 |
|--------------------------|------------------------------------|---|-----|
| 5G システム関連技術の 国際協調利用促進 | O-RAN、vRAN 技術を活用した Neutral Hosting | R03 <ul style="list-style-type: none"> ・世界情勢を反映し、バンダーの多様化の要求を鑑みつつ、政治的リスクを考慮して国の事業として実施することは理にかなっている。Neutral Hosting は近年コスト削減の要求から注目されており、これを実施することも妥当である。 ・英国の要望と日本が追加した提案の部分の明確化（切り分け）及び実証実験の具体的内容の明確化があれば、より理解が容易と考えられる。 ・公衆通信網の一部のため、高度な要求を出され、実証事業の難易度が高くなる可能性も想定される。その後のビジネスにつながる確率も相対的に低いのではないかと思われ、要所要所での政府の後押しが重要と考える。 | 4.0 |
| | O-RAN 準拠機器を用いた医療分野におけるローカル 5G 技術 | R03-R04 <ul style="list-style-type: none"> ・チリ政府からの要請があり、ニーズはあると思われる。チリでは過去に電子カルテに関する実証事業も実施済みで、地デジ導入で培った人脈も使用できる、といった利点があり、環境は整っていると考える。 ・この程度の費用で中南米等におけるキラーアプリが実現できるならば、コストパフォーマンスは高いと考えられる。 ・国と国との合意がすでにあり比較的政治的なリスクは少ないとはいえ、どのように他のリスクを想定するか、どのように対処するかは検討の必要がある。特に COVID-19 の急激な拡大は想定すべきであろう。 | 3.7 |
| | O-RAN 準拠機器を用いたローカル 5G 技術 | R03-R04 <ul style="list-style-type: none"> ・ベトナム及びタイ政府が熱心であるため実証実験の実現性は高く、また、多くの日本企業が進出しているアジアへの波及も期待される。 ・従来のサービスと比べて、何が新たにできるようになり、どんな点が便利になるのか、コスト面も含めて利点、優位性を相手国にしっかり理解していただく必要があると考える。 ・国と国との合意がすでにあり比較的政治的なリスクは少ないとはいえ、どのように他のリスクを想定するか、どのように対処するかは検討の必要がある。 | 3.7 |

| | | | | |
|--|--|------------|--|------------|
| | <p>現地エンタープライズ向けの O-RAN 準拠機器を用いた仮想化システム</p> | <p>R03</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・通信マルチメディア大臣の意向があるとはいえ、明確な契約のもとで行われる事業ではないので、政治的リスクを考慮して国の事業として実施することは理にかなっている。海外各国がセキュリティ政策として 5G におけるベンダー多様化を推進している状況で O-RAN 準拠機器を用いた実証実験の実施は妥当である。予算も妥当である。 ・商用ベースに近いことを踏まえると、参加企業にも一定の負担を求めるのは合理的と考えられる。 ・最終的な交渉相手は現地通信事業者になり、難しい交渉が予想される。当該技術が国際的に見てどこまで普及・実用化を進めることができるのか不明な面があり、政府の後押しが必要と思われる。 | <p>3.3</p> |
|--|--|------------|--|------------|